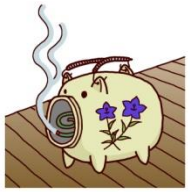
彼杵小学校だより　ＮＯ．14
「強く 正しく 朗らかに」
〈ホームページ〉 http://www.kyoui.higashisonogi.jp/sonogi-syo/

平成３０年８月２１日
東彼杵町立彼杵小学校
℡０９５７－４６－００３８
（文責　校長　原　源吾　）

残暑お見舞い申し上げます。



残暑お見舞い申し上げます。立秋(７日)から１０日あまり過ぎましたが，連日３０度を超える暑さが続いています。ただ，お盆あたりから日差しが少し和らいできたように感じます。このまま徐々に秋に近づいてくれたらと願うばかりです。

さて，夏休みも終盤を迎えました。今日は２回目の登校日でした。朝から全校朝会を行いましたが，今回も戦争・平和に関わる話をしました。鹿児島県にある「知覧特攻平和会館」の話です。概要をお知らせします。

この前，ＮＨＫの大河ドラマ「西郷どん」で有名な鹿児島に行ってきました。西郷どん，西郷隆盛は，今から１５０年ほど前，坂本龍馬や大久保利通等の人たちと力を合わせ，侍の時代を終わらせ，明治という新しい時代をつくった人です。知っている人もいるでしょう。

さて，今日は，西郷どんの話ではありません。同じ鹿児島県にある知覧（ちらん）町のお話です。

知覧には，特攻平和会館という建物があります。ここは，今から７３年前の沖縄の戦争で，特攻という，爆弾を積んだ飛行機と一緒に敵の船に体当たり攻撃をした１０３６名の兵隊の写真や遺書，戦闘機等が展示されています。私は，ここに来るのは２回目ですが，初めて行った時，建物の中に入ったとたんに，とても胸が苦しくなるような悲しい気持ちになったことを思い出します。

なぜなら，無くなった１０３６名の兵隊たちは，みんな２０才前後の若者で，しかも一度飛行機に乗って飛び立ったら，二度と戻ることがない，敵の船に突っ込んでいくために戦う兵隊たちばかりだったからです。自分から死にたいと思って戦地に行った人はいなかったはずです。戦争がなかったら，今の私たちと同じように，好きな時に好きなものを食べ，好きなテレビを見て，行きたい場所に旅行に行くこともできたことでしょう。

この平和会館に展示されている，兵隊さんの遺書（お別れの手紙）を少し紹介します。

「僕はもう、お母さんの顔を見られなくなるかも知れない。 お母さん、良く顔を見せて下さい。しかし、僕は何んにも「カタミ」を残したくないんです。十年も二十年も過ぎてから「カタミ」を見てお母さんを泣かせるからです。お母さん、僕が郡山を去る日、自分の家の上空を飛びます。それが僕の別れのあいさつです。」

「なつかしい静ちやん！おわかれの時がきました。兄ちやんはいよいよ出げきします。この手紙がとどくころは、沖なは(縄)の海に散つてゐます。思ひがけない父、母の死で、幼ない静ちやんを一人のこしていくのは、とてもかなしいのですが、ゆるして下さい。兄ちやんのかたみとして静ちやんの名であづけてゐたいうびん(郵便)通帳とハンコ、これは静ちやんが女学校に上るときにつかつて下さい。時計と軍刀も送ります。これも木下のをぢさんにたのんで、売つてお金にかへなさい。兄ちやんのかたみなどより、これからの静ちやんの人生のはうが大じなのです。もうプロペラがまはつてゐます。さあ、出げきです。では兄ちやんは征きます。泣くなよ静ちやん。がんばれ！」

７３年前，生きたくても生きられなかった若者がたくさんいました。戦争は，何と残酷で悲しいものなのでしょうか。私は，普通に生活できることがとても幸せなこととであることを強く思います。私たちは，今の時期，「夏休みがもうすぐ終わる，もう少し長かったらなあ。」と思うことがありますね。でも，夏休みがあることだけでもとても幸せなことです。平和だから夏休みがあるのです。「眠いからラジオ体操に行きたくない。」と思う人もいるでしょう。いくら朝早くても，空から爆弾は落ちてこないです。眠いなんてぜいたくなことかも知れませんね。

私たちが平和の世の中で暮らせるのは，自分の命を投げ出して戦争に行った人たち，食べ物，着る物，住む所もない中，苦しい生活をがまんして生き続けて平和な世の中にしてくれた人たちのおかげです。私たちは，このことを忘れず，平和な世の中を守り続けるためにこれからもしっかりと生きていかなければならないと思います。

※上の写真は，平和会館のパンフレットから引用しました。

※裏面はありません。